

令和6年度内子町こども議会会議録

○招集年月日 令和6年7月31日(水)
 ○開会年月日 令和6年7月31日(水)
 ○招集場所 内子町議会議事堂
 ○議長 竹内 快 君(内子中学校)

○出席議員(14名)

1番	明智 優 君(大瀬中学校)	2番	窪 樹希 君(大瀬中学校)
4番	中田 美奈海 君(大瀬中学校)	5番	源田 一花 君(小田中学校)
6番	船本 烈凰 君(小田中学校)	7番	吉川 蓮 君(小田中学校)
8番	吉田 郁斗 君(小田中学校)	9番	菊地 悠斗 君(五十崎中学校)
10番	中原 佐和 君(五十崎中学校)	11番	西岡 莉沙子 君(五十崎中学校)
12番	松田 悠聖 君(五十崎中学校)	13番	宇都岡 音沙 君(内子中学校)
14番	関根 瑞樹 君(内子中学校)	15番	高松 胡桃 君(内子中学校)

○欠席議員(1名)

3番 滝野 由捺 君(大瀬中学校)

○出席した理事者及び職員

町 長	小野植 正 久 君	副 町 長	山 岡 敦 君
総 務 課 長	黒 澤 賢 治 君	税 務 課 長	久保宮 賢 次 君
保健福祉課長	上 野 昌 宏 君	こども支援課長	山 本 勝 利 君
内子町保健センター所長	上 石 由起恵 君	建設デザイン課長	亀 内 重 範 君
会 計 課 長	田 中 哲 君	町並・地域振興課長	大 竹 浩 一 君
小田支所長	中 嶋 優 治 君	農林振興課長	大久保 裕 記 君
環境政策室長	高 嶋 由久子 君	政策調整班長	二 宮 大 昌 君
危機管理班長	宮 田 哲 郎 君	上下水道対策班長	稲 田 彰 二 君
商工観光班長	大 田 陽 市 君		
教 育 長	林 純 司 君	学校教育課長	亀 岡 秀 俊 君
自治・学習課長	福 見 光 生 君		

○出席した事務局職員の職氏名

事 務 局 長 前 野 良 二 君 書 記 本 田 紳太郎 君

○議事日程

日程第 1 議席の指定

令和6年度内子町こども議会

日程第 2 会議録署名議員の指名

日程第 3 会期決定の件及び議事日程通告

自 令和6年7月31日

会期

1日間

至 令和6年7月31日

日程第 4 町長あいさつ

日程第 5 一般質問

○本日の会議に付した事件

日程第1から日程第5まで

午前 9時00分 開会

○議会事務局長（前野良二君） ご起立願います。礼。ご着席ください。

○議長（竹内快君） ただ今から、令和6年度内子町こども議会を開きます。

私は議長を務めさせていただきます、内子中学校、竹内快と申します。スムーズな議事の進行ができますよう、皆様のご協力をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

本こども議会には、地方自治法第121条第1項の規定により、町長、教育長の出席を求めています。また、説明員として出席通知のありました者は、副町長及び各課長の19名であります。

これより、本日の会議を開きます。

日程第 1 議席の指定

○議長（竹内快君） 「日程第1 議席の指定」を行います。議席は、会議規則第4条第1項の規定により、議長において、ただ今のご着席のとおりに指定します。

日程第 2 会議録署名議員の指名

○議長（竹内快君） 「日程第2 会議録署名議員の指名」を行います。会議録署名議員は、会議規則第119条の規定により、議長において、5番、源田一花議員、9番、菊地悠斗議員を指名します。

日程第 3 会期決定の件及び議事日程通告

○議長（竹内快君） 「日程第3 会期決定の件」を議題とします。

お諮りします。こども議会の会期は、本日1日限りとしたいと思います。これにご異議はありませんか。

〔「異議なし。」の声あり〕

○議長（竹内快君） 異議なしと認めます。よって、会期は本日1日限りに決定いたしました。

本日の議事日程は、お手元に配布しております議事日程のとおりであります。

日程第 4 町長あいさつ

○議長（竹内快君） 「日程第4 町長あいさつ」を受けることにします。

○町長（小野植正久君） 議長。

○議長（竹内快君） 小野植町長。

〔小野植正久町長登壇〕

○町長（小野植正久君） 皆さん、おはようございます。内子町長の小野植正久です。

今日は、内子町で初めて開催します内子町こども議会に15人の皆さんがこども議会議員として参加してくれたこと、町長として大変嬉しく思いますし、大変楽しみにしていました。ここから皆さんの凛とした堂々たる態度を見ると、これから始まるこども議会に対する熱意や意欲を強く感じますし、大変頼もしく思います。

さて、皆さんがいるこの議場は、町民の皆さんが健康で豊かに暮らすことができる魅力的な町をつくるために、町民の代表である町議会議員の皆さんと町が話し合いを行い、ものごとを決定する大切な場所であります。この議場で内子町の将来を担うこども議会議員の皆さんに町議会の運営を直接体験してもらい、内子町のまちづくりについて話し合うことは大変有意義であり、参加した皆さんにとっても貴重な体験になるものと思っています。学校に帰ったら、ぜひ今日のこの体験を他の生徒の皆さんにも伝えてください。そして、多くの生徒の皆さんが内子町のまちづくりに関心をもってくれる機会になれば良いと思います。

今日は、こども議会議員として、内子町を魅力的な町にするために真剣に考えてくれたことを質問してもらうわけですが、皆さんの未来への希望などをしっかりと伝えるため、緊張するとは思いますが、自信をもって質問をしてください。私たちも皆さんの質問に、精一杯答えたいと思います。その中で、良い意見や提案等は内子町の未来のために活かしたいと思っています。

終わりにになりますが、本日の内子町こども議会の開催にあたり、多大なご尽力をいただきました学校関係者の皆様、保護者の皆様、そして町議会に対し、心から感謝申し上げますとともに、今後も町政運営に対し一層のご支援、ご協力をお願い申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。

有意義なこども議会にしましょう。どうぞよろしくお願いいたします。

日程第 5 一般質問

○議長（竹内快君） 「日程第5 一般質問」に入ります。質問は一問一答といたします。

質問時間は1人7分以内としておりますので、要領よくまとめて質問されますよう、議員各

位のご協力をお願いいたします。発言残時間は、右側の壁に設置しております残時間表示板でご確認ください。

また、理事者におかれましても、簡潔、明瞭に答弁いただきますようご協力をお願いいたします。なお、議員の質問の趣旨等に対する確認等がございましたら、先にその旨を告げてから発言してください。

それでは、質問を許します。

最初に、1番、大瀬中学校、明智優議員の発言を許します。

○1番（明智優君） 議長。

○議長（竹内快君） 明智優議員。

○1番（明智優君） はい。1番、明智優。

〔明智優議員登壇〕

○1番（明智優君） 大瀬地区へのコンビニエンスストアの誘致について質問します。

大瀬地区には、弁当などの食料品や文房具などを買えるお店が少なく、また保護者がいないときには内子の町中まで行くことのできる公共の交通手段もあまりないので、手軽にほしい物を購入することが難しいです。私たちのような学生や高齢の方々まで、大瀬地区にコンビニエンスストアなどのお店があったら暮らしやすくなると思いますが、町長のお考えを伺います。

○議長（竹内快君） 明智優議員の質問に対して、理事者の答弁を求めます。

○町長（小野植正久君） 議長。

○議長（竹内快君） 小野植町長。

〔小野植正久町長登壇〕

○町長（小野植正久君） 明智議員のご質問にお答えをいたします。

私も、大瀬地区にコンビニができれば、今まで内子のスーパーや商店街などで購入していた生活必需品を身近に購入でき、特に皆さんのような生徒さんや、運転免許を持たないの方々にとっては暮らしやすい環境をつくることができると思います。

ですが、コンビニを誘致するには多くのことを考えなければなりません。まずは大瀬の皆さんがコンビニ誘致を望んでいらっしゃるかということ。それであれば、コンビニとしての経営が成り立つだけの購買力がその地域にあるのかどうか。また、場所をどこにするのか。駐車場は確保できるのか。誰がどのように経営するのか。などなど、色々な課題を一つずつ解決していかなければなりません。

また、いま大瀬の商店街で商売されているお店と競合はしないのかということも考えなければならぬ重要なことのひとつでございます。

このように、コンビニ誘致には多くの壁がありますが、それらを全て乗り越えられれば誘致は可能だと思います。

今回の質問はコンビニを誘致できないかとの内容ですが、広い意味で捉えれば、移動を公共交通機関に頼らざるを得ない方々の買い物支援をどう進めるかということにもつながる

と思っています。内子町では、これからも誰もが住みよいまちづくりについて、様々な面から考えていきたいと思っています。

ご質問、ありがとうございました。以上、答弁とさせていただきます。

○1番（明智優君） 議長。

○議長（竹内快君） 明智優議員。

○1番（明智優君） 以上で、私の質問を終わります。

○議長（竹内快君） 次に、2番、大瀬中学校、窪樹希議員の発言を許します。

○2番（窪樹希君） 議長。

○議長（竹内快君） 窪樹希議員。

○2番（窪樹希君） はい。2番、窪樹希。

〔窪樹希議員登壇〕

○2番（窪樹希君） J Rの増便について質問します。

内子から松山などに行く場合に、J Rの便数が1時間に1本で不便です。便数を増便できないか、町長のお考えを伺います。

○議長（竹内快君） 窪樹希議員の質問に対して、理事者の答弁を求めます。

○町長（小野植正久君） 議長。

○議長（竹内快君） 小野植町長。

〔小野植正久町長登壇〕

○町長（小野植正久君） 窪議員のご質問にお答えします。

J R列車の増便というご提案ですが、路線の運行計画は、J R四国においてお客様の利用状況を調査、検討して決められています。また、特急列車は、起点が宇和島駅ですから、内子駅のことだけではなく、南予方面の各駅の利用者の状況もみながら検討されていると思いますから、増便に見合う利用者数が見込めないと増便は難しいのではないかと考えています。

J R四国が公表している統計の中に営業係数という数値があります。この数値を簡単に言うと、100円の利益をあげるのにいくらかかるかというものです。これによると、2022年度の予讃線、宇和島～松山間は100円の利益をあげるのに142円かかっている、いわゆる赤字路線ということになります。このような状況ですので、J R路線も公共交通ではありますが、J R四国は民間事業者ですから採算を度外視できませんので、利用者が減少すれば減便されることもあるかもしれません。

内子町では、J R路線のダイヤ改正の際には、町営バスからJ Rへうまく乗り継げるようバスの到着時間を設定するなど、1人でも多くの方にJ R路線を利用していただけよう取り組んでいます。

J Rやバスなど公共交通機関の利用は、環境に配慮した社会づくりの面からも大切なことだと思います。今後とも公共交通全体に対して関心を持ち、積極的に利用していただければと思います。

ご質問、ありがとうございました。以上、答弁とさせていただきます。

○2番（窪樹希君） 議長。

○議長（竹内快君） 窪樹希議員。

○2番（窪樹希君） はい。以上で私の質問を終わります。

○議長（竹内快君） 次に、3番、大瀬中学校、滝野由捺議員の一般質問ですが、滝野議員から、体調不良のため欠席届が出ています。代わりに、2番、窪樹希議員の発言を許します。

○2番（窪樹希君） 議長。

○議長（竹内快君） 窪樹希議員。

○2番（窪樹希君） はい。2番、窪樹希。

〔窪樹希議員登壇〕

○2番（窪樹希君） 現在、バス便が少ないので、例えば、江子や村前、程内からは大瀬の町まで行くことも簡単ではありません。移動手段はどうしても車となりますが、車を運転できる大人がいないと出かけられず、運転できない私たち中学生や高校生は出かけることが難しいです。私たち学生だけではなく、車を運転できない人も暮らしやすいようにバス路線を充実することが必要だと思いますが、町長のお考えを伺います。

○議長（竹内快君） 窪樹希議員の質問に対して、理事者の答弁を求めます。

○町長（小野植正久君） 議長。

○議長（竹内快君） 小野植町長。

〔小野植正久町長登壇〕

○町長（小野植正久君） 窪議員のご質問にお答えします。

移動手段を自動車に頼らなければならない中、バス便が少ないというご指摘については、そのとおりだと思います。現在、町内各地域を結ぶ交通手段のひとつとして、デマンドバスを町内19路線で運行をしております。江子、村前地区にも水曜と金曜日の運行で、事前に登録をして前日までに利用予約が必要ですが、片道250円で利用ができます。また、終点は内子町役場本庁になりますが、その間までの予約した場所で乗り降りすることができます。

デマンドバスは、運転免許証を持っておられない方や高齢者等の買い物、通院等への利用を主に想定していますので、毎日ではなく、運行日を週2回にしています。ただ、人口減少や新型コロナの流行等もあり、利用者数は年々減少傾向となっており、収支も年間950万円程度の赤字となっております。

このようなことから、町内の公共交通がより良いものとなるよう、現在『内子町公共交通計画』を作成する準備を進めています。アンケートも行い、住民の皆さんの意見も聞きたいと思っていますので、ご家族にもご協力をいただくようお願いいたします。

また、デマンドバスは、小中学生など運行エリア内にお住いの方であれば誰でも利用可能です。必要に応じて夏休み期間中のご利用などをご検討いただけたらと思いますので、併せてよろしくお願いいたします。

滝野議員のように、身近な移動手段をはじめ内子町のまちづくりについて関心を持っていただき、色々なご提案などをいただくことが、車を運転できない人はもちろん、誰にとっても暮らしやすいまちづくりにつながりますので、これからも関心を持ち続けていただきたいと思います。

ご質問、ありがとうございます。以上、答弁とさせていただきます。

○2番（窪樹希君） 議長。

○議長（竹内快君） 窪樹希議員。

○2番（窪樹希君） はい。以上で私の質問を終わります。

○議長（竹内快君） 次に、4番、大瀬中学校、中田美奈海議員の発言を許します。

○4番（中田美奈海君） 議長。

○議長（竹内快君） 中田美奈海議員。

○4番（中田美奈海君） はい。4番、中田美奈海。

〔中田美奈海議員登壇〕

○4番（中田美奈海君） 大瀬の公園などの遊び場の設置について。

大瀬には公園などの遊ぶ場所がなく、友達と遊ぶときは友達の家で遊んでいます。例えば、ブランコ、シーソーなどの遊具や、ベンチや東屋など、幼児を保護者が見守る場所や、お年寄りが楽しめるゲートボール場など、地域みんなが集える公園があればいいと思います。が、町長のお考えを伺います。

○議長（竹内快君） 中田美奈海議員の質問に対して、理事者の答弁を求めます。

○町長（小野植正久君） 議長。

○議長（竹内快君） 小野植町長。

〔小野植正久町長登壇〕

○町長（小野植正久君） 中田議員のご質問にお答えをいたします。

私も、子どもからお年寄りまで、地域の皆さんと一緒に集える遊具や東屋を備えた公園があれば、世代を超えた交流や、子どもたちの健全な成長を皆で見守り、育むことができる楽しい場所になると思います。そして、大瀬に限らず、このような場所が町内のどこにでもあればいいなと思います。

ただ、こうした公園を造るには、場所や住民の皆さんの理解、そしてお金も必要になってきます。内子町が行っている様々な仕事や取り組みは、全て皆さんからいただいている税金で賄っているわけですから、今ある施設を最大限に有効活用しながら、「どうしてもこれは必要だよね」、「これがなければ地域の皆さんが安心して暮らせないよね。」ということに使うべきだと思っております。

大瀬には幸いに、大瀬小学校、大瀬中学校、大瀬保育園、大瀬自治センター、ポケットパークなど、地域の人々がいつでも集える場所がいくつもあります。そして、アイデア次第でいくらでも楽しく使える施設だと思います。

公園がないから遊べない、人が集えない、楽しめないということではなく、どうしたら今

ある場所で楽しく遊べるか、集えるかを大瀬中学校のみんなで、そして大瀬地区の皆さん方で考えてみてください。皆さんが意見を出し合い、一生懸命考えた中で、「やっぱり公園は必要だね。」ということになれば、町としてもしっかり考えなければならないと思っています。

中田議員さんが今日質問してくれたことは、まちづくりにとって大事なことだと思います。私たちも、地域のことを一生懸命思い、どうしたら皆さん方が幸せに日々を暮らしているかを考えていきますので、どうか皆さん方も一緒に考えてみてください。

ご質問、ありがとうございました。以上、答弁とさせていただきます。

○4番（中田美奈海君） 議長。

○議長（竹内快君） 中田美奈海議員。

○4番（中田美奈海君） はい。以上で私の質問を終わります。

○議長（竹内快君） 次に、5番、小田中学校、源田一花議員の発言を許します。

○5番（源田一花君） 議長。

○議長（竹内快君） 源田一花議員。

○5番（源田一花君） はい。5番、源田一花です。

〔源田一花議員登壇〕

○5番（源田一花君） 内子町では出生数が減少しています。子育てに関する支援は手厚いものになぜなのでしょう。理由として、若者が内子町から離れてしまっているからだと思います。

そこで、若者が働ける、そして永住できる環境をつくったらよいのではないかと考えます。例えば、働ける場所と医療機関の両立として、内子総合病院をつくるのはいかがでしょうか。病院は看護師や医者だけが働く場所ではなく、医療に携わる多くの働き手が集まる施設です。働き手を増やすと同時に、内子町の医療の充実といったお互いのWin-Winが成り立つのではないのでしょうか。

○議長（竹内快君） 源田一花議員の質問に対して、理事者の答弁を求めます。

○町長（小野植正久君） 議長。

○議長（竹内快君） 小野植町長。

〔小野植正久町長登壇〕

○町長（小野植正久君） 源田議員のご質問にお答えします。

多くの若者が町内に残り、働きやすく永住につながるような町にするためには、農林業をはじめ、商工業や観光業など、町を支える産業を元気にすることだと思っています。産業が元気になれば働く場所が増え、多くの若者が新規就業者や担い手として町に残ってくれると思います。そのために内子町では、現在、町の最上位計画である「内子町総合計画」に沿って、様々な面からまちづくりを進めています。働く場所として、今日は総合病院を提案してくれました。地域医療の充実、多様な方の働く場所の確保という面では、それもひとつの方法かもしれません。

病院について少し説明しますと、現在、町内には歯医者さんを除き、比較的大きな加戸病院や小さな診療所を含めて11の施設がありますが、町内のどの病院も、医師や看護師などの医療関係スタッフ不足が大きな課題となっていて、特に内子町のような地方の病院では、診療を維持・継続することが難しくなっています。

病院にかかわらず、人材を確保するということは、とても大切なことです。ひとつの選択肢として、皆さん方の中でも興味があれば、お医者さんや看護師など医療関係に携わる仕事を目指していただき、将来地元の医療機関や福祉施設などに就職してくれると嬉しいです。とにかく、今日、議場に来てくれた皆さんはじめ、内子町の中学生の皆さんには、将来はぜひ町内に残ってもらえるよう、町も一生懸命頑張っていきたいと思っています。

ご質問、ありがとうございました。以上、答弁とさせていただきます。

○5番（源田一花君） 議長。

○議長（竹内快君） 源田一花議員。

○5番（源田一花君） 以上で質問を終わります。

○議長（竹内快君） 次に、6番、小田中学校、船本烈風議員の発言を許します。

○6番（船本烈風君） 議長。

○議長（竹内快君） 船本烈風議員。

○6番（船本烈風君） はい。6番、船本烈風です。

〔船本烈風議員登壇〕

○6番（船本烈風君） 内子町内では空き家がたくさんあり、年々増えています。空き家は放っておくと壊れやすく、倒壊する恐れがあります。またそれに伴い、人口の減少も激しさを増しています。今現在、小田地区の人口は2,000人を切っています。このままでは、地区の存亡の危機を迎えると思います。

対策としてお店か宿泊場所にして再利用か、崩したりするなどの対応をすればいいと思いますが、町長の所見をお伺いします。

○議長（竹内快君） 船本烈風議員の質問に対して、理事者の答弁を求めます。

○町長（小野植正久君） 議長。

○議長（竹内快君） 小野植町長。

〔小野植正久町長登壇〕

○町長（小野植正久君） 船本議員のご質問にお答えします。

令和5年度に実施した「空き家実態調査」で、町内には現在、1,561棟もの非常に多くの空き家があることが分かりました。船本議員ご指摘のとおり、今後も人口減少の影響を受け、空き家は増える傾向にあると予測しています。また、管理されていない空き家は屋根や外壁の落下、倒壊など様々な問題を引き起こす危険性も含んでいます。

こうしたことから、空き家の所有者に適切な管理をお願いするとともに、条件はありますが、解体する場合の経費の一部を補助しています。

また、活用の方では、空き家となっていた小田の「旧どい書店」をコミュニティスペース

やお店として、「旧二宮邸住宅」を宿泊施設としてそれぞれ活用するなど、町民の皆さんと協力しながら空き家や空き店舗の活用に取り組んでいます。また、「旧田渡幼稚園」の園舎のように、地域の方々が宿泊施設として運営されている事例もあります。

しかしながら、このような空き家等の活用は地域の賑わいを生んでいるものの、人口減少に歯止めをかけるまでにはなっていません。そのため、空き家の活用だけではなく、農業、林業、観光業等が元気で、子育て支援や景観保全等、まちの魅力を高めることも必要です。

船本議員をはじめ、今日参加してくれた皆さんや町内すべての児童生徒の皆さんには、これから先、学業や就職などでいったん、内子町を離れるかもしれませんが、できれば将来、内子町に帰ってきてほしいなと思っています。私たちは、皆さんが「住み続けたい」「帰ってきたい」と思えるまちづくりを一生懸命行っていきたいと思っています。

ご質問、ありがとうございました。以上、答弁とさせていただきます。

○6番（船本烈鳳君） 議長。

○議長（竹内快君） 船本烈鳳議員。

○6番（船本烈鳳君） 以上で質問を終わります。

○議長（竹内快君） 次に、7番、小田中学校、吉川蓮議員の発言を許します。

○7番（吉川蓮君） 議長。

○議長（竹内快君） 吉川蓮議員。

○7番（吉川蓮君） はい。7番、吉川蓮です。

〔吉川蓮議員登壇〕

○7番（吉川蓮君） 現状、小田の商店街は店の経営者の高齢化や継承者不足により店が閉店しています。実際、直近3年の間に3件程、店がなくなっています。そのため、商店街の活気がなくなってきており、結果、人口減少のもとになっています。これは、町内のどこの商店街にも当てはまっています。買い物をするときは、決して大きなスーパーだけではありません。ちょっとした買い物をするときには、近所のお店屋さんも利用すると思います。

そこで、各商店街に支援金を出すなど支援をすることで商店街が活性化すると思いますが、町長の所見をお伺いします。

○議長（竹内快君） 吉川蓮議員の質問に対して、理事者の答弁を求めます。

○町長（小野植正久君） 議長。

○議長（竹内快君） 小野植町長。

〔小野植正久町長登壇〕

○町長（小野植正久君） 吉川議員のご質問にお答えをします。

商店街を取り巻く環境は、吉川議員ご指摘のとおり、まず内子町全体で人口減少や少子高齢化が進んでいることに加え、商店街では店主の高齢化、後継者不足や店舗の老朽化等により厳しい状況で、店舗数は減少しています。

「各商店街に支援金を出しては」との提案は難しいと思いますが、内子町では今、商

工業の維持・強化及び空き店舗等の解消を図り、町内商工業の活性化につなげることを目的に「内子町はじめる・つなぐ商工活性化支援事業」という補助制度を作っていて、町内で創業・起業・事業拡大をする方々へ、最大150万円の補助金を出すという支援を行っています。この補助金は、これまでに9件、うち小田地域では2件の実績があります。

今後、商店街が生き残るためには、町の支援はもちろん必要ですが、お店独自の努力も必要になってまいります。お客さんが「商店街で買い物したい」と思えるようなお店の価値や魅力を高めることも、一方では必要ではないかと思います。内子町は、今後もそのように考え、頑張る商店街やお店を応援していきたいと考えていますし、皆さんも、ぜひ地元の商店街で買い物をしてください。

ご質問、ありがとうございました。以上、答弁とさせていただきます。

○7番（吉川蓮君） 議長。

○議長（竹内快君） 吉川蓮議員。

○7番（吉川蓮君） 以上で質問を終わります。

○議長（竹内快君） 次に、8番、小田中学校、吉田郁斗議員の発言を許します。

○8番（吉田郁斗君） 議長。

○議長（竹内快君） 吉田郁斗議員。

○8番（吉田郁斗君） はい。8番、吉田郁斗です。

〔吉田郁斗議員登壇〕

○8番（吉田郁斗君） 自転車や徒歩での登下校のときに、通学路に街灯が少なく足元が見えないところがあるため、転倒の恐れがあります。また、道路状況が悪く、自転車で通ったりとしたら転んでケガをしたりする恐れがあります。実際に本校の生徒2名が、登下校中に転倒し、けがをするといった事例が発生しています。

通学路について街灯の設置や道路の修繕が必要だと思いますが、町長の所見をお伺いします。

○議長（竹内快君） 吉田郁斗議員の質問に対して、理事者の答弁を求めます。

○町長（小野植正久君） 議長。

○議長（竹内快君） 小野植町長。

〔小野植正久町長登壇〕

○議長（小野植正久君） 吉田議員のご質問にお答えします。

まず、街灯の設置についてお答えします。街灯には設置場所により、街路灯・防犯灯・道路照明灯など様々なものがあり、それぞれの施設によって管理者が異なります。今回、質問してもらった通学路で、街灯が少なく危険な場所は、現地で確認し、各管理者と話し合いのうえ改善できるよう検討します。

次に、道路の修繕についてお答えいたします。町内の通学路には、国道、県道、町道等があります。町では、住民の皆さんが安全・安心で暮らしていただけるよう、定期的な見回り点検や、自治会等を通じて住民の皆様から危険箇所の通報を依頼するなどして確認を行い、

町で修繕したり、国や県へ要望しております。

今回、道路状況が悪く、転倒事故が起きてしまった場所についても、至急確認し、修繕したいと考えています。これからも、通学路上の危険な箇所については、定期的に点検を行い、より安全な施設となるよう維持・管理していきます。

ご質問、ありがとうございました。以上、答弁とさせていただきます。

○8番（吉田郁斗君） 議長。

○議長（竹内快君） 吉田郁斗議員。

○8番（吉田郁斗君） 以上で質問を終わります。

○議長（竹内快君） ここで、暫時休憩します。午前9時50分から再開します。

午前 9時40分 休憩

午前 9時50分 再開

○議長（竹内快君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、9番、五十崎中学校、菊地悠斗議員の発言を許します。

○9番（菊地悠斗君） 議長。

○議長（竹内快君） 菊地悠斗議員。

○9番（菊地悠斗君） はい。9番、菊地悠斗。

〔菊地悠斗議員登壇〕

○9番（菊地悠斗君） 今、一番必要となっているのは、公共施設のバリアフリー化の推進だと思います。なかでも、バリアフリー化が行き届いていないのは学校施設です。校舎のバリアフリースイレやスロープ、エレベーターなどは学校に設置されていないのが今の現状です。

施設を使うすべての人が分け隔てなく、安心して利用できることがバリアフリーの意義であり、それらを推進していく明確な理由です。令和2年5月の「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」通称バリアフリー法の改正に伴い、公立小中学校が新たに整備の対象に加わり、文部科学省では、既存施設でも数値目標を設定し、バリアフリー化に積極的に進めるというものをインターネットで拝見しました。数値目標は、最初に例として挙げたバリアフリースイレ、スロープ、エレベーターに、それぞれ設置する条件が設定されています。整備目標は令和7年度末と記載されていました。「学校施設におけるバリアフリー化の一層の推進について」という文科省の通知の中でも、「既存施設、新築ともに、所管する公立小中学校等施設のバリアフリー化の加速をお願いします」と記述されていました。

バリアフリー化を進めることで、いつでも柔軟な対応ができます。今、必要ないからではなく、あったら安心できるという気持ちができる、共生社会に確実に一歩前進します。内子町はこれからどのようにバリアフリー化を進めていくか、町長の意見を伺います。

○議長（竹内快君） 菊地悠斗議員の質問に対して、理事者の答弁を求めます。

○町長（小野植正久君） 議長。

○議長（竹内快君） 小野植町長。

〔小野植正久町長登壇〕

○町長（小野植正久君） 菊地議員のご質問にお答えします。

内子町の管理する公共施設では、耐震化や修繕事業等に併せてバリアフリー化を図っています。また、新たに設置する施設についても、ユニバーサルデザインの採用を基本としています。

例に挙げられた学校施設では、現在、教育委員会で小中学校の校舎・体育館のバリアフリー化について、国の補助金を活用し、順番に計画的に進めています。

これからの予定として、災害時に避難所となる学校施設では、高齢者や車イスの方も利用できるバリアフリーという観点から、多目的トイレの整備も急がれており、今年度と来年度に分けて、学校でも多目的トイレの整備をトイレの洋式化と併せて行う予定です。

誰もが安全で、安心して暮らせることが町の発展につながると思います。皆さん方も、学校で、地域で、家庭で、公共施設等だけでなく、いろいろなバリアフリーについて考える機会になれば嬉しく思います。

ご質問、ありがとうございました。以上、答弁とさせていただきます。

○9番（菊地悠斗君） 議長。

○議長（竹内快君） 菊地悠斗議員。

○9番（菊地悠斗君） 例えば、この議場でも段差等があり、バリアフリー化ができていないように、リハーサルや会場に来て感じました。そのことについて、町長の意見を伺います。

○町長（小野植正久君） 議長。

○議長（竹内快君） 小野植町長。

○町長（小野植正久君） 議員おっしゃるとおりでございます。順番にですね、いろんな施設をバリアフリー化、誰もが使いやすい、そういうところにしていくということでございまして、この議場についてもですね、議員おっしゃるとおりでございますので、検討をしているところでございます。以上です。

○9番（菊地悠斗君） 議長。

○議長（竹内快君） 菊地悠斗議員。

○9番（菊地悠斗君） はい。以上で質問を終わります。

○議長（竹内快君） 次に、10番、五十崎中学校、中原佐和議員の発言を許します。

○10番（中原佐和君） 議長。

○議長（竹内快君） 中原佐和議員。

○10番（中原佐和君） 10番、中原佐和。

〔中原佐和議員登壇〕

○10番（中原佐和君） 私は、来年、高校進学を控えています。進学先は、大洲方面、松

山方面を考えています。そのため、J Rを使つての通学となります。

私の兄は大洲の高校に通っています。五十崎から内子まで自転車を使い、J Rに乗って、大洲駅から高校までは自転車で登校しています。その姿を見て、登校、下校での負担が大きいのではないかと感じます。

そこで、高校生のためのバスの運行を提案します。そう思った具体的な例としては、大きく2つあります。

1つ目は、本人はもちろん、保護者にも負担がかかるということです。雨が降ったときには特に、保護者が駅まで送迎している人が多く、仕事をしている保護者にとっては特に負担が大きいと思います。

2つ目は、荷物の多さと重さです。教科書はカバン2つ分、それに加えてお弁当や部活の道具など、かなり重くなります。なので、自転車での通学は負担になっているように感じます。それを少しでも改善して負担を減らしてもらいたいです。

バスが難しいようであれば、自転車を2台買う必要があることについて1台分の補助のお金やタクシーの割引チケット配布など、通学の負担が少なくなるような提案をします。

私はこのように考えていますが、町長の考えを伺います。

○議長（竹内快君） 中原佐和議員の質問に対して、理事者の答弁を求めます。

○町長（小野植正久君） 議長。

○議長（竹内快君） 小野植町長。

〔小野植正久町長登壇〕

○町長（小野植正久君） 中原議員の質問にお答えします。

まず、高校生が登校、下校するための内子駅までのバスの運行についてですが、現在、町営の公共交通としては、内子町役場本庁から小田支所を結ぶ町営バス小田線が、原則土日を除いて1日17便。デマンドバスは、町内19路線を曜日の指定をして運行しており、町民の皆様にご利用いただいております。

J R内子駅に連絡する町営バス小田線、特に朝の便については、限られたバスの台数、運転手等で効率よく運行するため、町内にある高校への通学に利用しやすいことを第一に考えて時刻表を設定し、登下校に利用していただいています。このような状況ですので、町外の高校へ通学するための内子駅へ連絡するバス便については、いずれの中学校区からも設定しておりません。

次に、自転車やタクシーチケットによる支援ですが、町外の高校への通学者のみに補助を行うことは、町内の高校通学者との公平性が保てませんので、現時点では考えていません。ただ、自転車本体ではありませんが、自転車乗車用ヘルメットの購入費用への補助は行っています。ぜひ活用してください。

中原議員のように、町営バスなど身近な公共交通について関心を持っていただくことが利用者の増加や今後の改善につながっていきます。できれば、町内には内子高校と小田分校がありますので、ぜひ町内の高校への進学についても考えてみてください。

今回こうしたご質問をいただき、他の中学生や高校生にも、身近な交通機関について考えていただくきっかけになったと思います。

ご質問、ありがとうございました。以上、答弁とさせていただきます。

○10番（中原佐和君） 議長。

○議長（竹内快君） 中原佐和議員。

○10番（中原佐和君） 以上で質問を終わります。

○議長（竹内快君） 次に、11番、五十崎中学校、西岡莉沙子議員の発言を許します。

○11番（西岡莉沙子君） 議長。

○議長（竹内快君） 西岡莉沙子議員。

○11番（西岡莉沙子君） 11番、西岡莉沙子。

〔西岡莉沙子議員登壇〕

○11番（西岡莉沙子君） 近年、空き家の増加が問題となっており、私たちの町でもいくつか空き家が見られます。そこで、私は空き家を地域住民が気持ちよく過ごせる憩いの場として活用することを提案します。

この提案をした理由は3つあります。

1つ目は、空き家をコミュニティスペースとして提供すると、町民どうしの交流ができ、地域の人との関係性が深まると考えたからです。例えば、空き家を皆さんが過ごしやすいように、暑い夏には冷房を、また寒くなってきたら暖房をして立ち寄りやすい場所にします。そうすると、そこで老若男女が集まり、話したり、一緒に遊んだり、コミュニケーションをとることで良い関係を築けると考えています。

2つ目は、空き家は管理が行き届いていないので、台風や地震などで外装材や屋根材が飛んでしまったり、倒壊してしまうおそれがあるからです。また、不審者が出た際に、その不審者が簡単に隠れることができるなど、様々な被害が及んでしまう危険もあると考えたからです。

3つ目は、最近、大きな災害への不安が増えています。そのため、災害が発生した際には、地域の人々が互いに声をかけ合い、避難が難しい方も一緒に手助けできるようつながりが重要だと思っているからです。そのつながりを築くためには、空き家を使ったコミュニケーションが使えると考えました。

私の空き家に関する考えは以上です。町長の空き家問題についての考えを伺います。

○議長（竹内快君） 西岡莉沙子議員の質問に対して、理事者の答弁を求めます。

○町長（小野植正久君） 議長。

○議長（竹内快君） 小野植町長。

〔小野植正久町長登壇〕

○町長（小野植正久君） 西岡議員のご質問にお答えをいたします。

西岡議員のご指摘のとおり、適切に管理されていない空き家は、屋根や外壁の落下、倒壊など様々な問題を引き起こす危険性があり、近隣の住民だけでなく、通行する車や通学する

子どもたちにまで危険を及ぼす可能性を含んでおります。

はじめに、空き家を憩いの場、コミュニティスペースとして活用し、地域の方々の関係性を深めておくことで、大規模災害の際にも協力して避難ができる関係性が構築できるという西岡議員のご提案ですが、まさに日頃からの地域コミュニティによる人と人との関係性の構築は、有事の際に役立つことは間違いないと思っています。現在、元御祓小学校や小田地区の旧どい書店など、空き家や廃校をコミュニティスペースとして活用している例が町内でも見受けられます。そういった施設での交流は、地域の人どうしの関係性を深めるうえで大きく役立っており、役場としても積極的に取り組み、また支援していきたいと考えています。

次に、空き家の現状認識と対策です。先程、船本議員にお答えしたとおり、町内には1,561棟と非常に多くの空き家があることから、所有者に適切な管理をお願いするとともに、管理できない場合には補助金などによる支援を行い、解体を進めます。また、少し手を加えれば使える空き家は、空き家バンクを利用していただくなど、空き家所有者と移住・定住希望者とのマッチングを図っていききたいと考えています。

西岡議員のように、空き家をはじめ地域に目を向けていただくことが、危険を回避し、安全で安心したまちづくりや、住民の皆様の交流、また活気あふれる地域づくりにとって重要なことだと思います。今後とも地域に関心をもって、学校や家庭での生活を充実させてください。

ご質問、ありがとうございました。以上、答弁いたします。

○11番（西岡莉沙子君） 議長。

○議長（竹内快君） 西岡莉沙子議員。

○11番（西岡莉沙子君） 空き家の成功事例として、賃貸住宅、シェアカフェ、クールシェアなど、先程、町長がおっしゃったように様々な活用方法があります。内子町で活用する場合、どのような活用方法が有効であると考えているのか。老若男女が集える場所として使えるかなど、町長の考えを。内子町で活用する場合、皆さんが使えるようにどのような活用方法が有効であると考えているのか、町長の考えを伺います。

○総務課長（黒澤賢治君） 議長。

○議長（竹内快君） 黒澤総務課長。

○総務課長（黒澤賢治君） ご質問ありがとうございます。今、議員言われるとおりですね、やはり空き家、そのように放っておきますと倒壊するような危険もあるということで、具体的な防災上の危険に加えてですね、先程も言われましたように、犯罪のもとになってしまうような防犯。それから見た目、景観の問題。それから衛生上の問題。いろんな問題が発生してきます。そういったことから1つでも多くですね、解体をしたり、活用したり、そういったことが求められています。そうした中で、内子町でも、先程、町長が答弁しましたとおりですね、学校なんかの施設についてはコミュニティスペースとして利用したり、また空き家をですね、移住者の方がカフェとして利用したり、お店として利用したり、そういった取り

組みを現在しております。これから先のことでありますけれども、やはりそういった住民の方の取り組み、そういったこともきちんと支援していきたいと思っておりますし、町としても、町が所有している施設、そういったものをですね、地域の人たち、議員ご指摘のとおりですね、地域の人たちが集える場所、そこで人間性を築いて、いざ有事の際には、その人間性を活用してみんなが避難できる。そういった安全で安心した暮らしができるようなものに活用していきたいなというふうに思っております。

ですが、課題はたくさんあってですね、先程申しましたとおり、町長の答弁があったとおり、1,000を超える空き家があります。活用はしておりますけど、空き家は今後も増えていくと思います。そういった空き家をですね、どれだけ活用できるか。危険なものについては解体していけるか。そういったことはですね、議員の皆さんと一緒にですね、町としても考えていきたいというふうに思っております。またご提案があったらですね、町の方にもいつでもお電話いただいたらというふうに思います。ありがとうございました。

○11番（西岡莉沙子君） 議長。

○議長（竹内快君） 西岡莉沙子議員。

○11番（西岡莉沙子君） 以上で、質問を終わります。

○議長（竹内快君） 次に、12番、五十崎中学校、松田悠聖議員の発言を許します。

○12番（松田悠聖君） 12番、松田悠聖。

〔松田悠聖議員登壇〕

○12番（松田悠聖君） 今、内子町では人口が減っていて、高齢化も進んでいます。内子町に人を呼び込むためには、子育て環境や遊べる場所の整備をすることが大切だと思います。働く人が増えれば、若い人が増え、高齢化を止めることができると思います。若い人が増えれば子育てする人が増え、今よりも内子町の子どもが増えます。

このことを考えて、大企業を内子町に誘致することを提案します。大企業が建つことで法人税などの税金が入り、住民が増えることで所得税や住民税などが今よりも増加することが予想されます。その税金などを大型複合施設などの商業施設、子育て支援、社会福祉、災害の備えなど、新規事業や町の整備などに使うことで住民の満足度も上がり、内子町が栄えると考えています。

その中でも、私が力を入れていきたいのは大型複合施設です。大型複合施設には、ゲームセンターや飲食店、小売店などの様々な店を入れることができれば、幅広い年齢層の人が訪れると思います。内子町は近くに駅があって、高速道路もあってアクセスがいいので、遠方からでも気軽に足を運ぶことができます。内子町を働きたい町、住みたい町、子育てしたい町、帰ってきたい町を目指していきたいです。

このような理由から、内子町に大企業を誘致することを提案しますが、町長の考えを伺います。

○議長（竹内快君） 松田悠聖議員の質問に対して、理事者の答弁を求めます。

○町長（小野植正久君） 議長。

○議長（竹内快君） 小野植町長。

〔小野植正久町長登壇〕

○町長（小野植正久君） 松田議員のご質問にお答えします。

内子町では、まちづくりの指針として策定している「内子町総合計画」の中に、商工業の活動支援策として、「企業誘致の促進」を掲げております。

内子町の企業誘致の取り組みは、愛媛県と協力・連携して進めていますが、製造業等の工場に適した土地が少ないことから、廃校舎や空き家等を利活用した企業誘致の促進を図り、雇用対策に力を入れています。

直近では、令和元年10月に、内子の八日市護国町並保存地区内にある町並保存センター近くの空き家を利活用して、「官公庁や企業の福利厚生業務の運行代行サービス」を行っている「株式会社ベネフット・ワン」という会社の事務所を誘致し、現在20名の雇用が生まれています。

全国的に企業を誘致することはハードルが高く、また内子町では工業用地の確保も困難なため、今後も空き家等を利活用した企業誘致を今後も進めながら、住民の満足度を向上させ、町を栄えさせたいと考えています。

ご質問、ありがとうございました。 以上、答弁とさせていただきます。

○12番（松田悠聖君） 議長。

○議長（竹内快君） 松田悠聖議員。

○12番（松田悠聖君） 実際に、熊本県菊陽町でも同じように、TSMCなどの大企業を誘致して栄えています。町長の考えを伺います。

○町長（小野植正久君） 議長。

○議長（竹内快君） 小野植町長。

○町長（小野植正久君） すごいですね、ICT誘致で町全体が変わっている。テレビでも、私も随分と見させていただき、またそれによって町が大きく変わっている。労働条件、環境、そういったものも含めてですね、町が大きく変わっていく状況を拝見いたします。

なかなかですね、この誘致のあたってはですね、当然のことですけれども、なぜそこに誘致として候補地に挙がるかということが当然あります。本当にいろんな条件の中でですね、それは土地の例えば広さであったりとか、いろんな交通の問題でありますとか、あるいは人の問題でありますとか、おそらくそれ以外にもですね、いろんな課題、そういったもので適地というものは最終的に決めて、そこへ誘致がなされるということで、もちろんそこには自治体のいろんな活動も、もちろんあったんだろうと思います。ですからですね、なかなかそれを考えたときにですね、当然、企業誘致は今も活動を行っております。先程も答弁したようにですね、土地の問題でありますとか、いろんな交通の問題でありますとか、人の問題、そういったことで内子町が選ばれるということについてはですね、他のいろんな市町村、県内にもありますけれども、いろんな条件がちょっと内子町についてはですね、良い面と悪い面があるのかなというふうに思っております。現在もですね、できるだけ企業誘致をしてで

すね、そこで雇用を生みたいということで交渉をしているところではありますけれども、できるだけそういうことを成就させてすね、そこに新たな職場が生まれる。そういうことについてはこれからすね、一生懸命取り組んで働く場所の確保もしていきたいというふうに思っております。ぜひすね、皆さんに内子に残っていただいて、また産業の担い手としてすね、一緒にまちづくりを担っていただければありがたいと思います。以上です。

○12番（松田悠聖君） 議長。

○議長（竹内快君） 松田悠聖議員。

○12番（松田悠聖君） 以上で質問を終わります。

○議長（竹内快君） 次に、13番、内子中学校、宇都岡音沙議員の発言を許します。

○13番（宇都岡音沙君） 議長。

○議長（竹内快君） 宇都岡音沙議員。

○13番（宇都岡音沙君） 13番、宇都岡音沙です。

〔宇都岡音沙議員登壇〕

○13番（宇都岡音沙君） 今月12日に松山市で土砂崩れが起きましたが、そこはハザードマップで危険だと示されていなかったと聞きました。実際に災害が起こって避難しないといけないのは大人も子どもも変わらないと思います。しかし、ハザードマップを積極的に見ようとする小学生や中学生は少ないのが現状だと思います。それはハザードマップにはいろいろな情報が載っており、かえって小学生や私たち中学生には分かりにくいのではないかと考えます。

小学生や中学生にハザードマップを見てもらい、自ら考え、避難できるようにするためにできる取り組みは何だと考えますか。

○議長（竹内快君） 宇都岡音沙議員の質問に対して、理事者の答弁を求めます。

○町長（小野植正久君） 議長。

○議長（竹内快君） 小野植町長。

〔小野植正久町長登壇〕

○議長（小野植正久君） 宇都岡議員のご質問にお答えします。

現在、全国の市町村や気象庁では、大雨など災害が身近に迫った時に、住民の皆さんが自分で危険だと判断して避難してもらえよう、様々な情報を提供しています。宇都岡議員のように、日頃からハザードマップを見て確認しておき、災害時の円滑な避難につなげることは何より大切なことで、私たち大人も見習わなければならないことだと思います。

この気持ちをみんなにもってもらい、家庭や学校や地域で大人の方と一緒にハザードマップを見ながら、大雨や地震など考えられる災害に対し、いつ、どこを通過して、何を持って、どこに避難するのかなどを話し合ってもらえればと思います。また、その際、何か問題となることはないかなどについても話し、一つでも課題を解決していくことが、私たちのできる最も身近な一番の防災対策です。

確かに、ハザードマップにはたくさんの情報が書かれていて、見にくい部分もあるかもし

れませんが、例えば、災害ごとの危険な場所の範囲や避難場所、気象情報や避難行動など、どれも災害の危険性を理解し、実際に避難するためには必要な情報ばかりです。

私たちも可能な限り被害を少なくし、早く復旧できるようなマップとするよう、その時々
の大事な情報、必要な情報、優先順位や見やすさなどを検討していきますので、皆さんもマ
ップを利用して災害について身近な人と話し合い、理解を深め、備えていただきたいと思います。

宇都岡議員のように中学生に災害や防災について関心をもっていただくことは非常にあ
りがたく心強く感じます。ちょうど今年度から、役場の危機管理班には、長年消防署に勤め
ていただいた方を危機管理監という防災の専門家として配置していますので、分からない
ことや解決できないことがありましたら、皆さんの疑問を聞かせていただき、解決につなげ
ていただければ嬉しく思います。

今後とも、災害に関心をもち、防災について考えてみてください。どうぞよろしくお願い
いたします。

ご質問、ありがとうございました。以上、答弁とさせていただきます。

○13番（宇都岡音沙君） 議長。

○議長（竹内快君） 宇都岡音沙議員。

○13番（宇都岡音沙君） 先程、町長さんにできることを答えていただきましたが、私は
イラストや分かりやすい言葉で書かれた子ども用ハザードマップを作り、学校などの見や
すい場所に置いておくことで、小学生が興味をもって見たり、中学生も簡単に見ることがで
き、避難場所や危険な場所を理解することができると思います。それについて、町長さんは
どのように考えますか。

○総務課長（黒澤賢治君） 議長。

○議長（竹内快君） 黒澤総務課長。

○総務課長（黒澤賢治君） ご質問ありがとうございます。

小学生が見ても、中学生が見ても分かるようなハザードマップということで、確かにその
とおりだと思います。誰が見ても分かりやすいということが大切だと思いますけれども、現
在のハザードマップといたしますのは、先程、町長がお答えしましたとおり、難しく言いま
す法律でですね、決まっています、こういったことを載せなさいよということになっているも
のを載せているんですけども、小学生、中学生に見てもらってもですね、分かりやすいも
の、そういったものは作っていく必要があるんじゃないかなと思っておりますけれども、一
番大切なのは、自分がですね、それを見てどう感じるかだというふうに思っております。そ
のためにはですね、よくやる方法として、自分たちでそういったマップを作ってみる。防災
マップとかですね。そういったことも大事じゃないかなと思っております。よく私たちがや
るのは、自分のお住まいの地域、また学校周辺、それを自分たちで歩いてみて、日頃歩いて
いる道ですので、行かなくても分かるよということもあるかもしれませんが、防災の視点
で地域を見てみる。例えば、この水路は普段あまり水が流れていないけど、大雨のときには

溢れはしないかなとかですね、道路の山肌は地震のときには崩れやすい、そういった地層でできていないかなとか、そういった視点で見てみる。また、地域の避難所はここが避難所だけれども、雨が降ったときには横に川が流れているから、それよりは集会所の方が安全じゃないかなとか、自分で地域を歩いてみて、そういったことを考えてみて、そういったことを自分で作った地図に落としてみて、例えばお友達であったりとか、家族であったりとか、そういった人と話し合ってみて、自分で地域を見つめて、自分なりの避難の仕方というのを考えてみる。そういったことがですね、やっぱり一番自分のためになる。そういった防災マップ作りというふうにもなると思いますので、そういった取り組みというのもですね、ぜひやっていただいたら、防災、また地域のことを身近に感じられるんじゃないかなというふうに思いますので、私たちもですね、努力をしていきたいと思いますので、そういった取り組みにも関心をもっていただいたらというふうに思います。ありがとうございました。

○13番（宇都岡音沙君） 議長。

○議長（竹内快君） 宇都岡音沙議員。

○13番（宇都岡音沙君） 以上で質問を終わります。

○議長（竹内快君） 次に、14番、内子中学校、関根瑞樹議員の発言を許します。

○14番（関根瑞樹君） 議長。

○議長（竹内快君） 関根瑞樹議員。

○14番（関根瑞樹君） 14番、関根瑞樹です。

〔関根瑞樹議員登壇〕

○14番（関根瑞樹君） 近頃、コロナウイルスの感染力が弱まり、内子町の町並みなどに訪れる観光客も増えてきたと思います。しかし、それに伴い、町並みの脇道でポイ捨てを見かけたり、自動販売機などの横にあるリサイクルボックスに飲食物の空き容器などが捨ててあったりするのをよく目にするようになりました。

そのために、内子の本町通りや観光施設にゴミ箱を設置して、より綺麗な内子町にするための取り組みを行ってはどうでしょうか。京都府の嵐山などではゴミ箱を設置しているほか、デザインを茶色にするなど景観に合ったものになっていて、関心するところがあります。また、イタリアのヴェネチア、ローマ、ナポリなどの世界的な観光都市では、観光客の目を惹くゴミ箱が設置してあり、観光資源のひとつと言えると感じます。内子町でも、景観に合うよう工夫したゴミ箱を設置して、観光資源のひとつにしながらも、しっかりとゴミ問題を解決していくことはとても良いことだと思うのですが、町長さんの考えをお聞かせください。

○議長（竹内快君） 関根瑞樹議員の質問に対して、理事者の答弁を求めます。

○町長（小野植正久君） 議長。

○議長（竹内快君） 小野植町長。

〔小野植正久町長登壇〕

○町長（小野植正久君） 関根議員のご質問にお答えします。

近頃、多くの観光地では、オーバーツーリズムという観光客が増えたことによって起きる大混雑が大きな社会問題となっており、地域住民とのトラブルなども起きています。内子町でも、ゴミのポイ捨てなど例外ではありません。

ゴミ箱の設置にあたっては、種類や分別が必要な場合は、その設備も検討しなければなりません。また、定期的な清掃やメンテナンスを行う体制、衛生状態を維持し、住民や利用者に快適な環境も提供しなければなりません。

「内子町の本町通りや観光施設にゴミ箱を設置してはどうか」とのご質問ですが、ゴミ箱を設置する場所として、人通りの多いエリアや町並み、商店街の周辺など、利用者が利便性を感じられる場所への設置はひとつの方法であると考えております。

内子町では、「エコロジータウンうちこ」にふさわしい「ゼロ・ウェイスト」を目指し、5Rの推進に取り組んでおり、そこにあるゴミ箱に捨てるのではなくて、「自分が出したゴミは自分で持ち帰る」ことをお願いしています。ゴミの問題はマナーや意識がとても大切ですから、観光客の皆さんにも内子町の取り組みを知ってもらい、協力してもらえよう啓発に努めたいと思います。

また、仮に設置する場合でも、ゴミ箱のデザインについても商店街等の雰囲気合ったものにするのが、内子町の景観ならではの取り組みにつながるものと考えております。

美しい観光地を目指しての内子ならではのゴミ箱設置のご提案、今後の観光行政を進めるうえで、また「エコロジータウンうちこ」を目指すうえで参考にさせていただきます。

ご質問、ありがとうございました。以上、答弁とさせていただきます。

○14番（関根瑞樹君） 議長。

○議長（竹内快君） 関根瑞樹議員。

○14番（関根瑞樹君） 世界的な観光都市や、先程言った京都府の嵐山などでゴミ箱が設置されている理由は、観光客に喜んでもらい、利便性がより高まるからだと思います。多少のリスクはありますが、観光客に喜んでもらえて印象に残ることで、より多くの観光客が訪れることも期待できると考えるのですが、町長さんの考えをお聞かせください。

○町長（小野植正久君） 議長。

○議長（竹内快君） 小野植町長。

○町長（小野植正久君） 内容につきましてはですね、先程答弁させていただいたとおりであります。これは考え方なんですけれどもね、ゴミが出て、今、行っていますのが、「自分が出したゴミは自分で持って帰ってください」というのが基本でありまして、そういうお願いをして、またそういう考えのもとですね、極力、ゴミ箱は設置をしないということで対応をさせてもらっております。ある程度はですね、ゴミが全くないわけではないんですけど、町並みの中でありますと、例えば地域の方がですね、清掃活動をしておられまして、その中でいろんな清掃活動もされております。自分たちの町は自分たちで綺麗にしようということでですね、ゴミ自体もそんなにありませんが、そういう活動を地域でもやっております。

ゴミ箱を置くことがですね、いいのか、悪いのかというのは、いろんな考え方があると思

います。どうしても、そういう声が多いようであれば、それは検討しなければならないと考えておりますけれども、現時点ではですね、啓発をするということですね、お持ち帰りいただきたいということで進めていきたいとは思っております。以上です。

○14番（関根瑞樹君） 議長。

○議長（竹内快君） 関根瑞樹議員。

○14番（関根瑞樹君） 以上で質問を終わります。

○議長（竹内快君） 最後に、15番、内子中学校、高松胡桃議員の発言を許します。

○15番（高松胡桃君） 議長。

○議長（竹内快君） 高松胡桃議員。

○15番（高松胡桃君） 15番、高松胡桃。

〔高松胡桃議員登壇〕

○15番（高松胡桃君） 内子町では年々降水量が増えていて、川が近くにある地域も多いため非常に危険だと思います。立川のハザードマップに載っている避難場所のひとつの立川自治会館では、豪雨災害、洪水のときに危険です。別のPDFに避難場所は災害別に分かれています、はっきり言って見にくいです。若い世代を内子町に増やそうとしているのであれば、スマホ版のハザードマップがないのも疑問に思います。自分自身、スマホで調べてもハザードマップになかなかヒットせず「ハザードマップを改定しました」という、お知らせのようなところにあり、発見しにくかったです。一刻を争う災害のときに、すぐに確認できるようにするのがハザードマップではないでしょうか。

そこで、ハザードマップを地震のとき、水害のときなど、災害別で分けること、スマホ版のハザードマップを分かりやすい位置に作ることの2つを提案したいのですが、これについてはどう思いますか。

○議長（竹内快君） 高松胡桃議員の質問に対して、理事者の答弁を求めます。

○町長（小野植正久君） 議長。

○議長（竹内快君） 小野植町長。

〔小野植正久町長登壇〕

○町長（小野植正久君） 高松議員のご質問にお答えいたします。

はじめに、「災害種別によるハザードマップを」とのご提案ですが、現在、内子町で作成しているマップは、洪水の場合などに浸水する可能性がある地域やその深さ、また避難所などを掲載した「洪水ハザードマップ」と、土砂災害の危険性のある場所の範囲や避難場所などを掲載した「防災マップ」の2種類です。

しかし、地震にしても大雨や台風にしても、災害には何1つ同じものではなく、状況や受ける被害は様々ですから、災害時に改めて確認することも大切ですが、先程、宇都岡議員からの質問にも答弁させていただきましたように、日頃から家庭などで一緒にハザードマップなどを見ながら、地域の危険性や避難所の位置、連絡の取り方などを話し合い、確認しておくことが大切です。そんな話し合いから、ご自分の家や地域で災害や被害に応じた防災対策

を考えられてはいかがでしょうか。

次に、「ホームページの分かりやすい位置に、スマートフォン版のハザードマップを用意しては」とのご提案ですが、ハザードマップには災害に対して必要な様々なものが書かれています。一方で、皆さんに少しでも見ていただくための工夫も必要だと考えますので、現在のホームページ上からのハザードマップへのアクセスはもとより、スマートフォン版についても検討していきたいと思います。

高松議員の、ご家族のこと、地域のことを深く考えた防災対策についてのご提案、大変嬉しく思います。今後とも地域のことを大切に思う気持ちを持ち続けていただければ、ありがたいと思います。

ご質問、ありがとうございました。以上、答弁とさせていただきます。

○15番（高松胡桃君） 議長。

○議長（竹内快君） 高松胡桃議員。

○15番（高松胡桃君） 先程、スマホ版のハザードマップを作ることに對して検討していくとおっしゃられましたが、具体的にはどれぐらいの期間がかかると考えていますか。

○総務課長（黒澤賢治君） 議長。

○議長（竹内快君） 黒澤総務課長。

○総務課長（黒澤賢治君） ご質問ありがとうございます。

いろんなことをするときにはですね、それを作るために材料集めですとか、そのためにどのくらいのお金がかかるとかですね、またどういった人と相談していくことが必要とか、専門家の意見とか、いろんなことがありますので、これから先、検討していきたいと思うんですけれども、いつということはなかなか申し上げにくいんですけれども、早急に検討していきたいというふうに思っております。以上です。

○15番（高松胡桃君） 議長。

○議長（竹内快君） 高松胡桃議員。

○15番（高松胡桃君） 以上で質問を終わります。

○議長（竹内快君） 以上で、本日の議事日程はすべて終了いたしました。

久保内子町議会議長、挨拶をお願いします。

○内子町議会議長（久保美博君） 議長。

○議長（竹内快君） 久保内子町議会議長。

〔久保美博内子町議会議長登壇〕

○内子町議会議長（久保美博君） 令和6年度内子町こども議会、大変お疲れ様でした。こども議会開催にあたりましては、小野植町長をはじめ、関係職員の皆様、特に各中学校の校長先生をはじめ、担当教員の皆様の深いご理解をいただき、ここに無事に終わることができました。誠にありがとうございました。

今回の主役のこども議会議員の皆様からいただいた一般質問につきましては、皆様の目線で見えたこれからの内子町ということで、それぞれの質問をされました。小野植町長も、ま

ちづくり、町民が安全で安心して暮らせる町となるよう考えていただいております。皆様の今日の質問案件が目に見える形で出来上がれば、素晴らしいことだと思います。私たち議会議員も、皆様の意見を踏まえて町政に反映できますよう努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

こども議会開催にあたりまして、関係者の皆様のご努力に感謝を申し上げまして、簡単ではございますが、私からのお礼に代えさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

○議長（竹内快君） 以上をもって、令和6年度内子町こども議会を閉会いたします。

○議会事務局長（前野良二君） ご起立願います。礼。

午前 10時40分 閉会

地方自治法第123条第2項の規定により、ここに署名する。

内子町こども議会議長

内子町こども議会議員

内子町こども議会議員